

DT（2種混合）予防接種について

病気の説明

（1）ジフテリア

ジフテリア菌の飛沫感染で起こります。現在では国内の患者発生数は年間0が続いていますが、アジア地域では、時折流行的発生がみられています。

感染は主にのどですが、鼻腔内にも感染します。ジフテリアは感染しても10%程度の人に症状が出るだけで、残りの人は症状が出ない保菌者となり、その人を通じて感染することもあります。症状は高熱、のどの痛み、犬吠様のせき、嘔吐などで、偽膜と呼ばれる膜がのどにできて窒息死することもあります。発病2～3週間後には菌の出す毒素によって心筋障害や神経麻痺を起こすことがあるため注意が必要です。

（2）破傷風

破傷風菌はヒトからヒトへと感染するのではなく、土の中などにいる菌が傷口からヒトの体内に入ることによって感染します。菌が体の中で増えると、菌の出す毒素のために、筋肉の強直性けいれんを起こします。最初は口が開かなくなるなどの症状で気付かれ、やがて全身の強直性けいれんを起こすようになり、治療が遅れると死に至ることもある病気です。患者の半数は本人や周りの人では気が付かない程度の軽い刺し傷が原因です。土中に菌がいるため、感染する機会は常にあります。また、妊娠中の母親が抵抗力（免疫）をもっていれば出産時に新生児が破傷風にかかるのを防ぐことができます。

副反応について

医療機関から副反応の疑い例として報告されたうちの重篤症例の発生頻度は、10万接種当たり0.2となっています。重い副反応はなくても、機嫌が悪くなったり、腫れが目立つときなどは医師に相談してください。

接種時期

標準接種年齢	接種可能年齢	接種回数
11～13歳未満	小学校6年生	1回